

---

# 杜子春の如く

得無

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

杜子春の如く

### 【Nコード】

N6418D

### 【作者名】

得無

### 【あらすじ】

城址公園の櫓門の下にたたずむ男・・・「満ち足りる」とは、どのような感情なのだろう・・・。実際に旅先で出会ったことを膨らませ、短編小説に仕上げたものですが、登場人物はもちろん架空です。

その男は、亀城公園の櫓門の下にたたずんでいた。訳もなく、ただ公園を行き交う人々を眺めている。今日は日曜で、いつもよりたくさんの人が公園を訪れていた。

息子とキャッチボールをしている父親がいる。将来は野球選手にでもさせたいと、夢を描いているのだろうか。それとも、こうして息子と一緒に遊んでいること自体、楽しくて仕方ないのだろうか。この父親は今、満ち足りているのだろうか……。

近くの亀城プラザで行われていた催し物が終わり、関係者が駐車場に向かつて流れてくる。今日はピアノの演奏会だろうか、それともダンスの発表会だろうか。練習の成果が出せたのか、それともひとつのことをやり終えたという成就感からか、どの顔も喜びに満ちているように見える。彼らは今、満ち足りているのだろうか……。

日が暮れてくると、寒さが身にこたえる。空腹であれば尚更である。じっとしているのは辛い。男は歩きだした。公園の一角に小さな檻があり、中に1匹の二ホンザルが飼育されている。何の因果でここにいるのだろうか。止まり木の上にちょこんと座り、真ん丸になつて寒さをしのいでいる。ヤツは、一生ここから出ることはないだろう。じっとしていれば、食べ物ももらえる。決して飢えることはない。それは生き物にとって、とてつもなく幸せなことであるに違いない。

「うわ〜カワイイ〜」

観光客がカメラを向けている。結構人気者なのだ。しかし、ヤツは今、満ち足りているのだろうか……。

男は再び櫓門の下に戻った。昔読んだ物語であるが、杜子春という若者は、洛陽の西門の下にたたずみ、そこで仙人と出会う。3度金持ちにしてもらったが、それにあきたらず、自分も仙人になろうと修行する。結局仙人になることは叶わなかったのだが・・・もし仙人になれたとしたら、杜子春は、満ち足りることが出来たのだろうか・・・。

あたりが暗くなってきた。男は歩き始める。ねぐらに向かう途中、等覚寺という寺に寄る。掲示板に書かれた言葉を読む。かみしめるように何遍も読んでみる。

「満ち足りた気持ちになったとき、人はいつ死んでもいいと思う。満ち足りた気持ちになったとき、人はいつまで生きながらえてもいいと思う」

駅前のバス乗り場の横にある小さな公園、そこが男のねぐらである。わずかな段ボールとシートで寒さをしのぐ。

「私はまだ、いつ死んでもいいとは思わない。しかし、このままいつまでも生きながらえていたいとも思わない。結局、満ち足りていないってことか・・・。」

寒さに震えながら、男は自問自答する。

「満ち足りた気持ちになるために、私は何をすればいいのだろう。仕事を持ち、家庭を持ち、そこそこのお金を持てば、満ち足りた気持ちになれるのだろうか・・・。」

しかし答えは出ない。なぜなら彼自身、そんな生活を捨ててきたのだから・・・。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6418d/>

---

杜子春の如く

2010年11月25日02時39分発行